

私の誕生日がいろいろ

花組 尾川

入園して3ヶ月が過ぎました。花組の子どもたちも、この3ヶ月の遊びが自分の生活とつながり、砂場を見れば「先生、山をつくって上から水を流そう」と以前した遊びを思い出して誘ったり、雨が降れば「先生、今日は雨遊びができるね。雨をペットボトルに集めたい」と必要なものを保育者に言ったり、「水遊びあります」の看板が出ていると、「プールできる日だね！やった～」と喜ぶ子どもたち。



色々なことが自分の生活とつながりながら、“楽しいな”“面白いな”“悲しいな”・・・など様々な気持ちと出会ってきた1学期。先日は、Kくんの誕生日（花組3回目の誕生日）を行いました。「誕生日会始めましょう！」と保育者が子どもたちを誘うと、Mちゃんが、Kくんの椅子を前に持ってきて、「Kくん、ここに座るんだよ！」と以前の誕生日会を思い出して、椅子を準備する姿がありました。Kくんが前に座り、お誕生日の歌を歌ったり、みんなから「おめでとう」の言葉のプレゼント、保育者から誕生日カードのプレゼントを渡すと、Sくんが「僕も誕生日がいい！」と言いました。すると、Nちゃんが「ここに（前の席に）座りたい」Hくんは「僕のカードは？」と以前までは、「お誕生日会楽しいな」と思いながら参加している様子でした

が、お誕生日会も自分ごとにつながってきたようです。保育者が「今日は、Kくんお誕生日だけど、みんなの誕生日も順番にくるから楽しみに待っていてね」と言い、誕生日表を見ながら、1人1人の誕生日を確認していきました。Nくんが、「僕は、何回寝たら？」Yくんは「次は僕だって～やった～」Aちゃんは、「先生、お願い。次は私の誕生日がいいの」と・・・みんな誕生日が待ちきれない様子。どうしようもないと分かっている、自分のお誕生日がいいと思う気持ちと葛藤しながら、何度も何度も誕生日表を確認している子どもたちでした。自分の気持ちを素直に言葉で伝えて素敵だな。と思い、友達の誕生日も一緒に喜びながら、お祝いする楽しさと自分の誕生日が来る楽しみがもてるように支えていきたいです。次の日は、砂場で誕生日ケーキをつくったり、家族ごっこでは、誕生日会が行われていたり、子どもたちのやりたい遊びに誕生日がつながって遊んでいました。



1学期、幼稚園でたくさんの「もの」や「こと」に出会い、自分の「好き」を見つけてきた子どもたち。自分の「好き」と出会う中で、少しずつ友達の存在も身近に感じてきています。2学期は、より友達といると楽しいなという気持ちにつながってほしいと思っています。

だって、仲間だから♪

風組 中原

「先生！今日のお弁当 A ちゃんと食べるんだ！」「そうなの？いいね！」「だって、仲間だから♪」と、笑顔でいっぱいのBちゃん。この前までは、「先生、お弁当のとき隣りに来て！」と言っていたと思ったら、いつの間にか友達のことを仲間と言うようになっていて、1学期の日々を積み重ねてきた先の今があることを実感しました。この日の午前中、登園後すぐに、カブトムシを戦わせて遊んでいたAちゃんとBちゃん。「だって、仲間だから♪」というBちゃんとの会話の続きから、2人がとても楽しく遊んだことが伝わってきました。一緒に遊んで楽しかったという気持ちは、子どもたちを仲間にするんですね！これからももっともっと、仲間が増えていく予感がしました。

別の日には、女の子たちが宝石屋さんをして遊んでいるところに「プリンセスのショーがあるので来てください」と、星組のプリンセスたちが誘いに来ました。遊戯室へといざなわれていった女の子たちが、風組に戻ってくるなり「ドレスづくりたい」「ビニールのやつ!!」と、前のめりになって保育者のもとに押し寄せます。おそろいのドレスを着て、エルサになって踊る星組さんを見て、同じようにやっ

てみたくなったのでしょうか。さっそく風組でもドレスづくりが始まります。そして「よし、私たちもショーしよう」と、それぞれがつくったドレスや三つ編みを身に付けて、遊戯室に向かいます。風組の女の子たちは、自分になりたいプリンセスのドレスをつくったので、エルサの他にもベルやラプンツェルもいますし、イチゴドレスの人だっています。それぞれに自分の思いがあって、自分なりの表現を楽しみながらも、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる姿は、4歳児らしいかわいい姿だなと思いました。

自分のしたいことを楽しむ中で、一緒に楽しんだ友達のことを仲間だと感じたり、星組さんや友達と同じようにやってみようという気持ちになったりと、4歳児を語るときには、やはり友達との関わりは外せません。自分のしたいことが最優先ではあるものの、友達と一緒に楽しみたい気持ちも大きく育った風組の1学期でした。



友達と協力しながら

星組1 田中

あっという間の3か月でしたが、子どもたちの成長をたくさん見ることができました。今日は何をしようか、昨日よりもっとこうしようと、日々遊びを楽しむ中で子どもたちはいろいろなことを経験し、学んでいるのだなと感じています。

A君が黄色い画用紙を細く切り、ポテトをつくっていました。「先生、マックのポテト入れたいよね」と相談を受けたので、ポテトの入れ物を一緒につくっていると、隣にいるB君が「こうやってるつくるん？」と一緒に作り始めました。するとC君がやって来て、「ここにマックのマークもいるんじゃない？」とマークを切り始めました。「じゃあお願い」と自分たちで考えて、役割分担しながら次々とポテトが出来上がります。「ハンバーガーとかジュースもいるよね」とA君。保育者もお手伝いしながら、メニューをかく子、バーガーづくりを手伝う子と色々な子が代わる代わる来てマックの準備が進みます。でもつくるものが多いので大変です。お帰りの紹介の時間に「ナゲットはまだ1個なんだよね。お店の人が足りんのよ」とA君がみんなに相談しました。すると「手伝うよ」との声が。こういう姿が素敵ですね。次の日、D君が「マックの帽子もいるよね」とのことだったので、保育者が帽子をつくり2人の店員さんが開店準備を始めました。初めは2人だった

店員さんが「僕もマック屋さんになるよ」と次々に集まり準備は進みます。保育室の前にテーブルを出していよいよオープンです！「料理しながら売るのがいいんじゃない？」の提案に「いいね。これ使おうよ」とおままごとコーナーからコンロとフライパンを持って来て調理場ができ、「看板があるんだ」と新聞紙を丸めた棒に旗とマークをつけてつくった看板がつき・・・遊びながらいろいろなアイデアがあふれ出します。風組のときにもしていたマック屋さんですが、そのときの経験を元に、自分たちで考えながら進める姿が見られました。お客さんで来てくれた花組さんが「僕もこの帽子が作りたいたい！」と涙目になりながら言っています。でも片付けの時間が迫っています。A君に「どうする？」と聞くと「これ被ってもいいよ」と自分が被っていた帽子を花組さんに被せてあげたのです。帽子を被れて満足した花組さんは「ありがとう」と帽子を返して笑顔で帰って行きました。年下の友達の気持ちも考えられて素敵だなと心がほっこりしました。



いよいよ夏休みが始まります。夏休みもしっかりと楽しんで、さらにパワーアップした子どもたちに会えることを楽しみにしています！

おばけランドが開くまで

星組2 中野

「おばけ屋敷が作りたいたい」というAちゃんの一言から始まったおばけ屋敷づくり。男の子たちが口裂け女などの妖怪に変身して遊んでいる姿を見て思いついたようです。さっそくAちゃん、Bちゃんが段ボールを開き、立てていきます。「なににつくってるの？」「入れて」と興味をもった子どもたちが何人も加わり、段ボールを切ったり、立てたりして通路のようなものをつくり始めました。そんな中、Cくんが「ここ切りすぎちゃったかも・・・」とまずそんな顔をしてつぶやきます。するとAちゃんが「ポロポロの方が怖くていいじゃん？大丈夫」とCくんに声を掛けていました。Aちゃんの言葉を聞いたCくんは「そっか、確かにいいかも」とほっとしたような、納得したような表情をして、また別の場所をつくり始めました。友達同士でこんな風に声を掛け合い、進めていけるなんて素敵だなと感じます。

別の場では、Dちゃん、Eちゃん、Fちゃんが3人でおばけ屋敷をつくらうとしていました。机の上に黒い布をかけて暗くし、「ここからおばけを吊るそう」と机の裏に糸で吊るしたおばけを貼っていきます。Gくんは、「おばけが出てくるおばけの里にしよう」と段ボールの箱の中にたくさん

おばけを入れ、待ち構えてお客さんを驚かせる考えのよう。そんな風に当初はそれぞれのイメージのおばけ屋敷を作っていたのですが、「ねえ、つなげない？」とDちゃん。「いいね、そうしよう」とそれぞれの場がつながっていきます。その日の集いでGくんが「おばけ屋敷がつながって、おばけランドってことにしようよ」と一言。すると、「それ、いいね」「じゃあ、もっと大きくた方がよくない？」「おばけも多い方がいいね」など・・・どんどんイメージが膨らみ、アイデアもたくさん出てきました。

それぞれのしたい気持ちが十分に満たされたからこそ「つなげたい」「つなげた方がもっとおもしろい」そんな気持ちが芽生え、友達の提案も受け入れられるのだと思います。「おばけランド」という言葉にもそれぞれのイメージを大切にしながらも一つにしようという気持ちが表れています。大きくなったおばけランドはその後遊戯室へとお引越し。ソンビヤ妖怪の仲間も加わり、花組や風組を繰り返し招待しては驚かせることを楽しんでいました。

